

河川管理施設の維持管理技術向上のため研修施設

堤防実モデル実習施設

九州技術事務所では、実際に「見る・触れる・感じる・考える」ことで点検の基礎技術を学習できるように、河川の堤防及び樋門に発生する変状を再現した堤防実モデル実習施設を整備しました。

河川管理施設の状態を適切に把握・評価し、維持管理できる人材を養うことで、将来に渡り河川管理施設を健全な状態に保ち、人々の安全・安心を守ります。



国土交通省 九州地方整備局

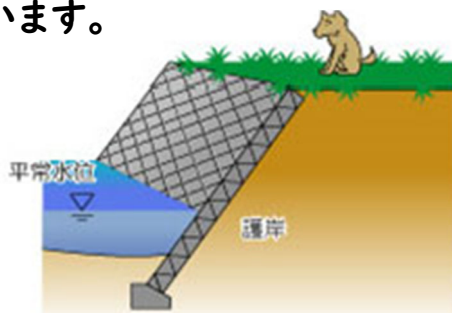
九州技術事務所

(九州防災・火山技術センター)

河川管理施設概要 (2/2)

護岸

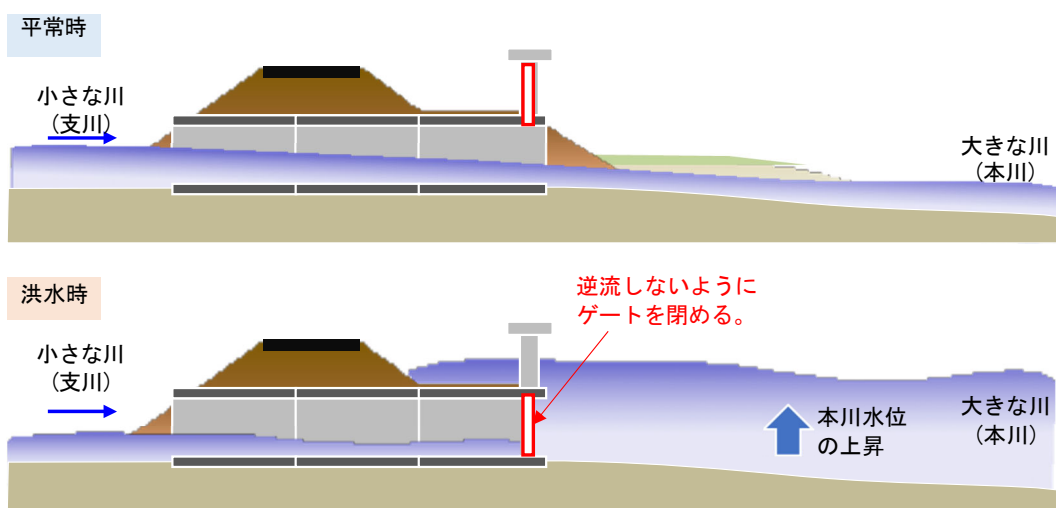
川を流れる水の浸食作用などから河岸や堤防を守るために、それらの表面を覆うように設けられる施設で、コンクリートや石材などが多く用いられています。



出典: 国土技術政策総合研究所ホームページ
<http://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/yougo/words/067/067.html>

樋門

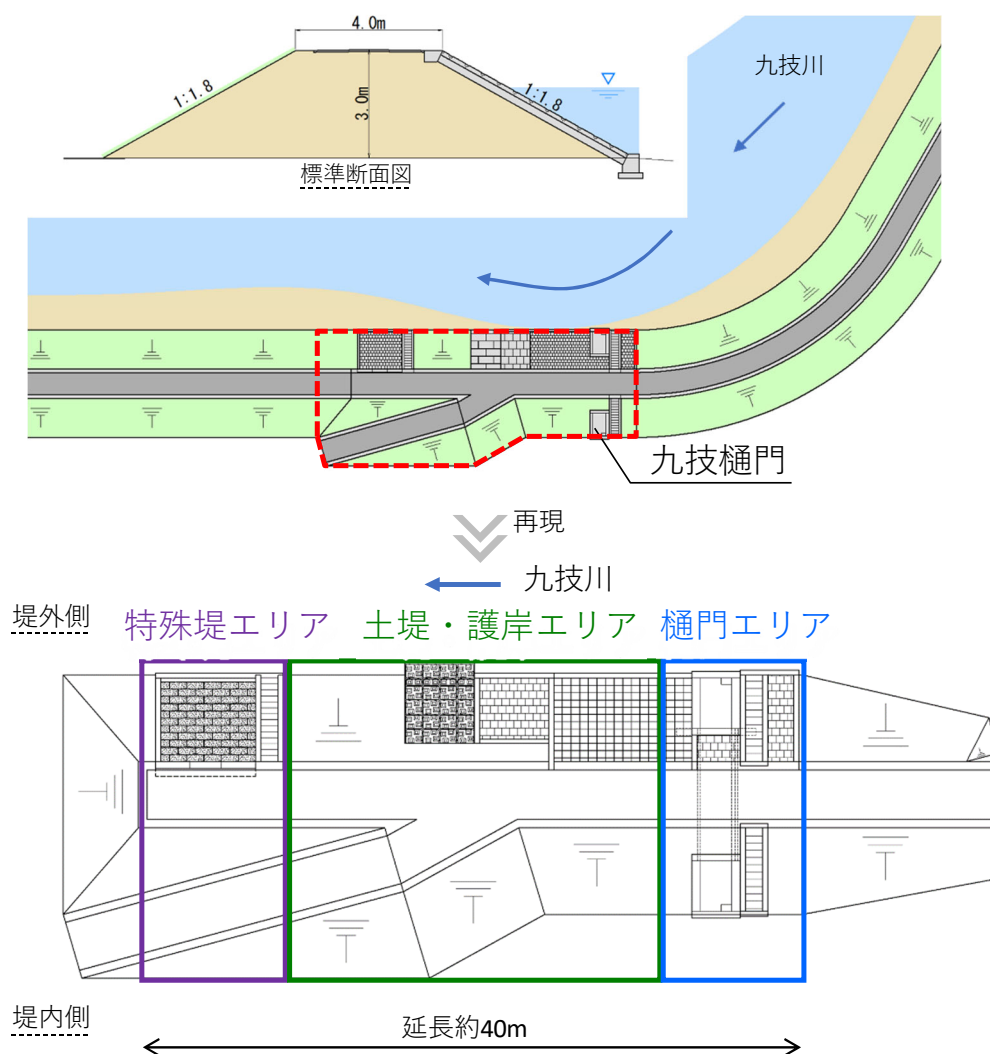
住宅や田畑がある土地に降った雨水が小さな川や水路を流れ、より大きな川に合流する地点において、大きな川の水位が洪水などで高くなった時にその水が住宅や田畑の側に逆流しないように設ける施設です。その多くは堤防の中にコンクリートの水路を通し、大きな川の側にゲートが設置されています。



堤防実モデル実習施設概要 (1/2)

実際の現場を想定しています

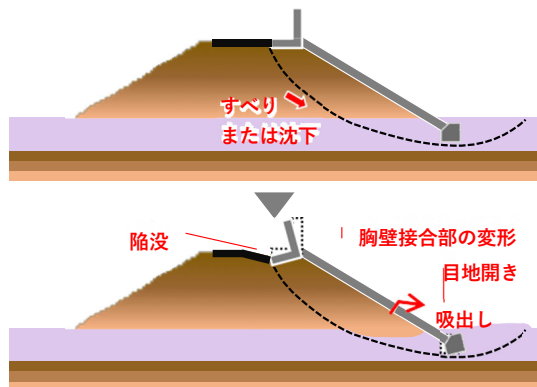
- 堤防実モデル実習施設は比較的危険な箇所とされる流水が強く当たる外岸側を想定しています。
- 堤防や護岸、樋門、特殊堤といった河川管理施設を設置しています。
- これらの河川管理施設は高度経済成長期に大量に整備されたものと仮定し50年経過している状態を想定しています。
- 施設は大きく「特殊堤エリア」「土堤・護岸エリア」「樋門エリア」の3つに分けておりそれぞれに特徴的な変状を再現しています。



堤防実モデル実習施設概要 (2/2)

例えばこんな変状を再現しています

●特殊堤エリア

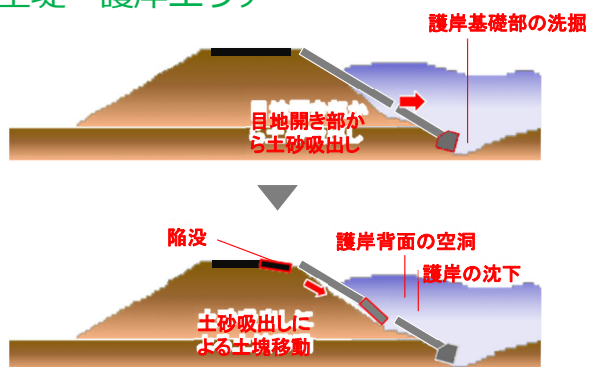


▲胸壁接合部の変形等の発生イメージ図



▲胸壁接合部の変形

●土堤・護岸エリア

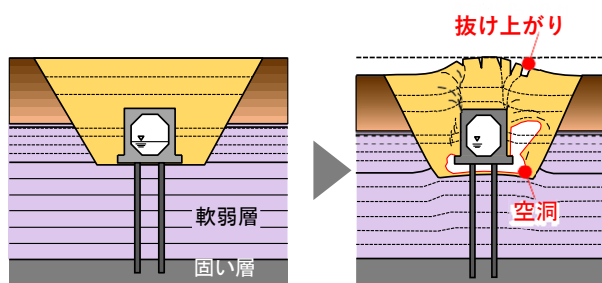


▲護岸基礎部の洗掘等の発生イメージ図



▲護岸基礎部の洗掘

●樋門エリア



▲抜け上がりの発生イメージ図



▲抜け上がり